

New Sophia Hospital

ニューソフィアホスピタル

福岡歯科大学医科歯科総合病院

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号 TEL092(801)0411

No.35
2024.05



病院の理念

私たちは、地域と社会、臨床と研究、医科と歯科、過去と未来を「つなぐ病院」として、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、地域の皆様に信頼され続ける病院をめざします。

病院の基本方針

- 患者中心の医療
 - 患者の皆様の人格を尊重した優しさのある医療を提供し、地域の信頼に応えます。
- 安全・安心な高度医療の提供
 - 医科歯科総合病院として多職種連が協働し、安全・安心で高度な医療を推進します。
- 地域医療への貢献
 - 地域の医療・介護・福祉施設と連携し、地域の皆様の健康維持に努めます。
- 全人の医療を実践できる医療人の育成
 - 医療人としての誇りを持ち、患者さんの身になって考えることのできる医療人の育成に努めます。

病院長 新年度のご挨拶

福岡歯科大学医科歯科総合病院

病院長 坂上 竜資



福岡歯科大学医科歯科総合病院は、大学の暦に合わせて4月から新年度が始まりました。本院は歯科医師、歯科衛生士、看護師を養成する教育病院という役割も担っておりますので、患者さまには何かとご協力をいただくこともあります。これからも大学病院として質の高い、安全・安心な医療を提供して参りますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

まずは病院からのお知らせです。一昨年4月の民法改正を受けて、18歳成人が社会的にも広く認容されるようになってきています。そこで本院においてもこの度、診療の同意については「18歳以上は患者本人の意思に従う」と

しました。ただし手術や入院の場合には、これまでと同様に、ご家族にも説明し同意いただく場合もありますのでご了解ください。

新型コロナ感染症については、昨年5月に5類相当に移行し制限が緩和されました。本院では特設のプレハブ棟にて診察を行ってきましたが、この度これを撤去しました。今後はインフルエンザ感染症と同じように、病院内にて診察させていただきます。発熱を伴う風邪症状がある場合には、予約制にて検査受付をしておりますので、まずは電話連絡をしてください。院内に感染が拡大しないよう配慮しておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

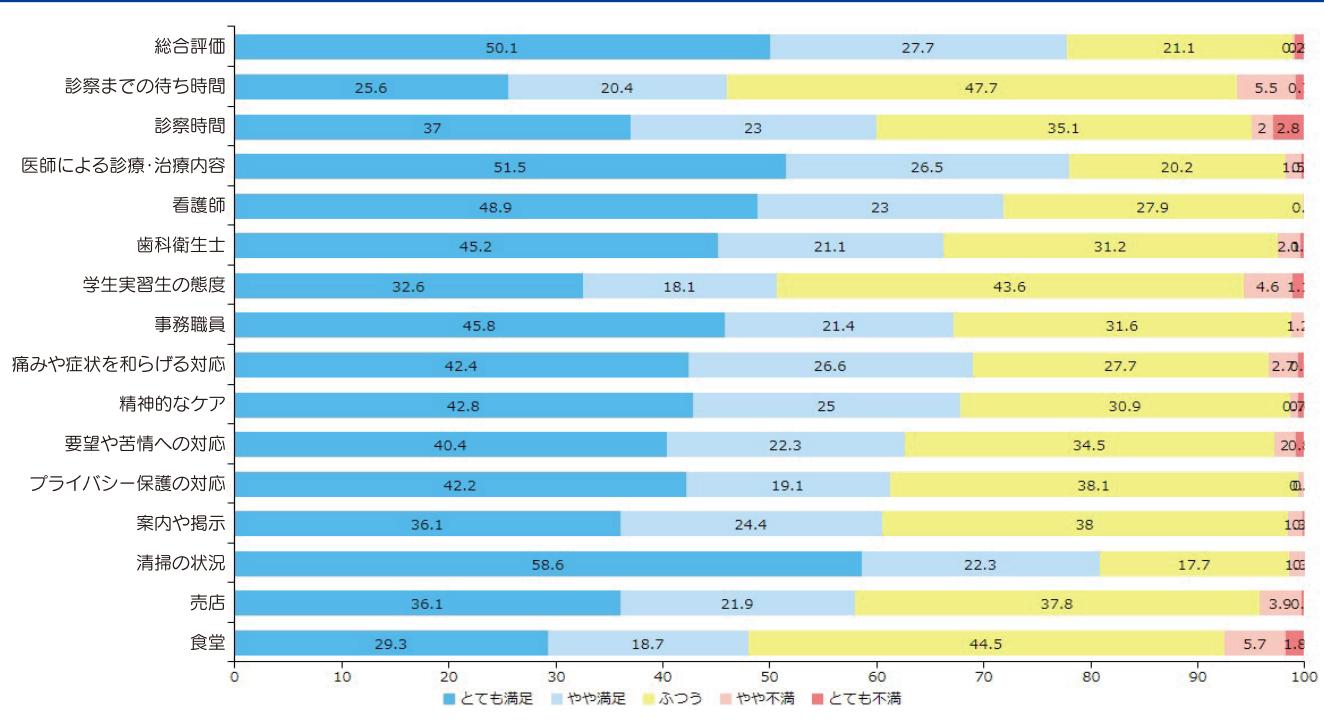
最後になりましたが、年初に生じた能登半島地震は甚大な被害をもたらし、被災された方々は未だに厳しい生活をされています。震災にて亡くなられた方々の御冥福をお祈りしますとともに、被災地の1日も早い復興を心より願っております。本院からも歯科医師2名、歯科衛生士2名、理学療法士1名を、被災地に派遣しました。詳細は、本冊子にて報告していますので是非ご覧になってください。

令和5年度患者満足度調査

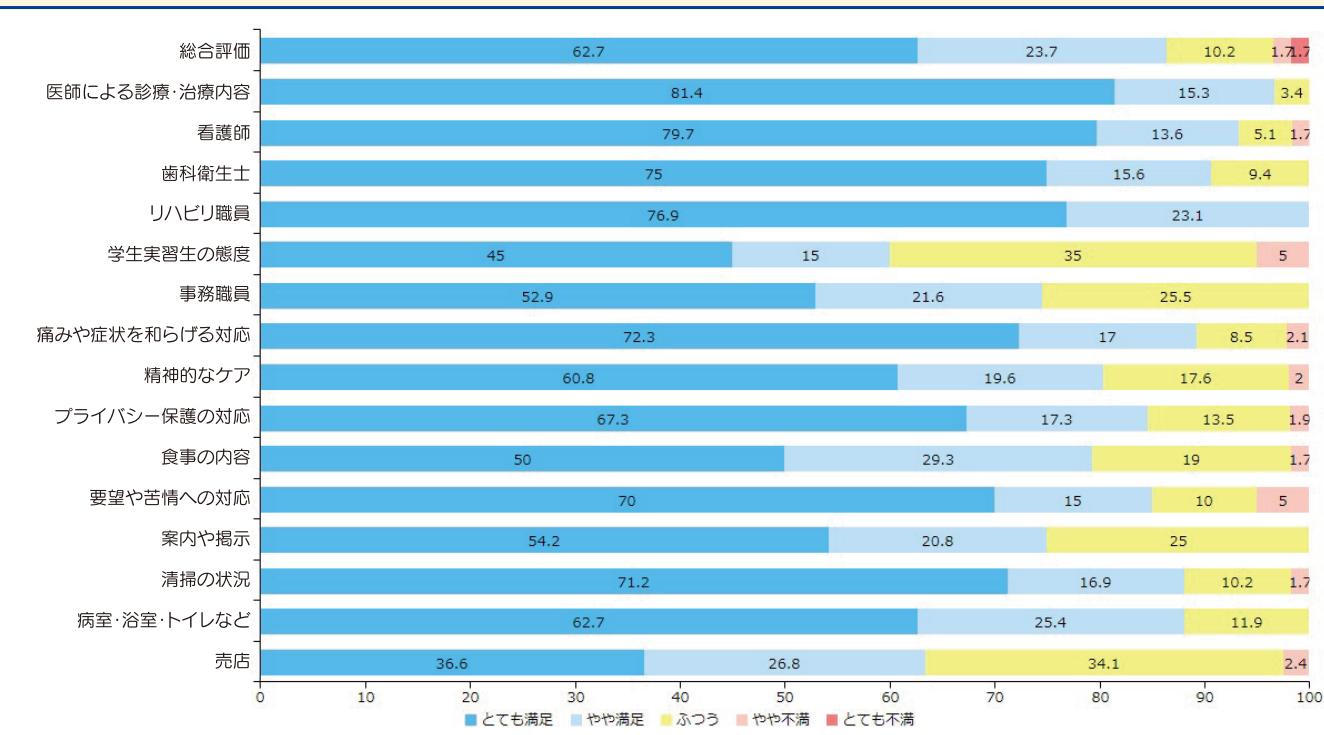
期間:令和5年11月24日～12月15日

令和5年度の患者満足度調査結果です。外来1,177名、入院55名の方にご協力を頂きました。
頂いた結果を参考にして、さらに病院のサービス向上に努めます。

【外来結果】



【入院結果】



能登半島地震における珠洲市での歯科支援経験

福岡歯科大学成長発達歯学講座障害者歯科学分野 田崎 園子

この度私は福岡県JDAT (Japan Dental Alliance Team:日本災害歯科支援チーム)の一員として、能登半島地震の被災地にて歯科医療支援活動を行いました。JDATは2022年3月に日本災害歯科保健医療連絡協議会により創設され、主に災害発生後72時間以降に被災地での人的支援や物資支援などを行うことを目的としたチームで、今回がJDATが結成されてから初の支援活動となりました。

私は2018年ごろから災害歯科保健についての研鑽を積んできておりましたが、被災地において支援歯科医療スタッフとして活動したのは今回が初めてでした。災害歯科支援活動そのものは、基本的な歯科知識と技術および災害歯科保健の知識があれば対応可能なものでしたが、災害医療支援の調整本部や各地の避難所には非常に沢山の災害支援チーム (DMAT・JMAT・HuMA・災害看護学会・DHEAT・薬剤師会・JRAT・栄養士…など) があり、歯科医師だけでなく、多くの職種とコミュニケーションを図る必要がありました。また、多職種間でコミュニケーションを図

るツールとして、2019年に新型コロナウイルスの流行と共に普及したWeb会議ツールが災害現場で活発に利用されていたのが非常に印象的でした。

このような災害は二度と起きて欲しいものではありませんが、日本という国の地理上、災害はいつどこで起きてもおかしくないものであるため、今後もさらなる技術や知識の向上に努め、災害時には歯科医療支援活動を積極的に行っていきたいと考えております。

最後になりましたが能登半島地震により犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。



小児歯科患者の自由研究『ぼくの前歯』

小児歯科 担当医 隅 聰子
(科長 岡 晴子)

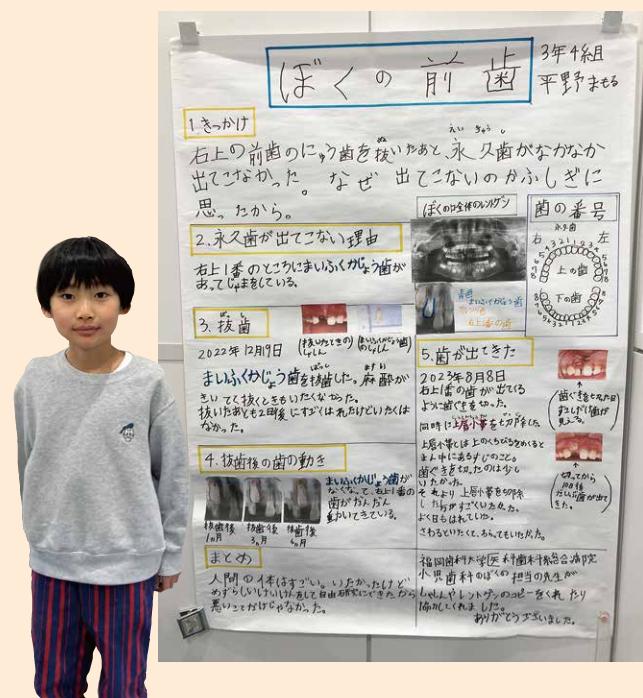
「先生にこれを見せたかったんだ！」

小児歯科の外来がとても忙しかった夏休みシーズンが過ぎた頃、小学生の患者さんが大きな紙を筒のように丸めたものを持って、笑顔で診療室に入ってきました。広げてみると、それは自由研究のポスターでした。内容は、およそ1年前から抜歯や小手術を頑張って、ようやく永久歯の前歯が生えてきたことを夏休みの自由研究としてまとめたものでした。すぐに他のドクターや歯科衛生士の注目の的となり、写真を撮らせて欲しいとお願いしました。自分の身長よりも大きなポスターの横に立つ、照れてはにかみつつも誇らしげな表情を見て、担当医である私はもちろん、小児歯科のスタッフ全員が元気をもらいました。

小児歯科は患者さんである子ども達の成長をお手伝いし、その喜びを分かちあうことができる診療科です。泣きながら診療室へ入っていた子がいつのまにか笑顔で大きなお口を開けられるようになったとき、虫歯を作らないために歯磨きを一生懸命頑張ってくれるとき、歯並びがよくなつて笑顔を見せてお話ししてくれるとき、私たちは、小児歯科医としての大きなやりがいを感じます。

子どもにとって、お口の治療はとても怖く、時には泣くほど嫌なこともあります。保護者の方にも、頻繁な通院だけでなく、仕上げ磨きや毎日のお口の体操など、ご自宅でのケアのために協力ををお願いすることが多々あります。今

回、お渡していたエックス線の画像を使って、自分のお口の変化に興味を持ってまとめてくれたこのポスターを見て、頑張ってくれた患者さんと保護者の方への感謝気持ちでいっぱいになりました。これからも、患者さんや保護者の方に信頼していただける診療をご提供できるよう、努力して参りたいと思います。



摂食嚥下・言語センター（ことばと飲み込みのケアセンター）

病気や年齢に関わらず、お口から食べ続けることを目指して活動しています

摂食嚥下・言語センター長耳鼻咽喉科教授 山野 貴史

摂食嚥下・言語センター（ことばと飲み込みのケアセンター）は、ことばや飲み込みの問題に対して専門的な医療を行う部門です。飲み込みに関しては、食事の時や水やお茶を飲む時にむせる、肺炎を繰り返す、既に胃瘻（いろう）などの経管栄養が行われている方についても、少しでも口から食べることができないかどうかなども検討いたします。ことばに関しては、声がかかる、続かない、うまくことばが出ないなどの症状についても対応いたします。当センターは、福岡歯科大学医科歯科総合病院の特徴である、医科と歯科の連携を活かした、特色のある多職種連携のチームです。

特に嚥下障害の治療に力を入れており、原則、嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査の2つの検査で治療方針を決定します。嚥下リハビリテーションは、主に言語聴覚士が、補綴装置や義歯の調節などが必要な場合には高齢者歯科や補綴科が対応します。入院中であれば、口腔のケアを歯科衛生士が、看護師が食事介助に対応し、管理栄養士を交えての栄養サポートチームの活動とも連携しています。さらに、重症例に関しては、耳鼻咽喉科医が外科的治療を担当します。

当院での他職種チームでの対応が有効であった症例を提示します。

（症例）70歳台男性。帯状疱疹ウイルスの後遺症として嚥下障害があり、他院で2か月間リハビリテーションでしたが、改善がないため当院を受診した。初診の嚥下造影検査で、右側の咽頭収縮の障害と誤嚥を認めた（図1）。左側の咽頭収縮は残存していたため、食塊が左に流れいくように、頬杖位の姿勢を提示し、それを言語聴覚士および病棟看護師が毎食時に指導した（図2）。入院中は、肺炎の予防のため歯科衛生士が口腔のケアを担当した。さらに、耳鼻咽喉科医が声門閉鎖強化のための嚥下機能改善手術を追加することで、嚥下造影検査で誤嚥も無くなり（図3）、経口摂取が可能となつた。

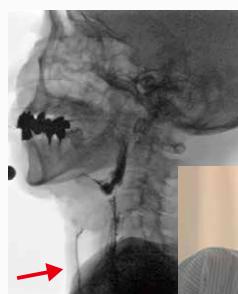


図1 矢印は誤嚥
(造影剤が、気管に入っている。)



図2 頬杖位で健側(左)に
食塊を誘導している。



図3 治療前に認めた誤嚥は
消失している。

口腔・顎顔面外科学講座講 講師 吉住 潤子

歯科医師は、皆さんのが口から食べることに大きな役割を果たしています。「口から食べること」＝摂食・嚥下機能は、豊かな人生の為に欠かせない機能であり、大きな楽しみです。当院では、歯科医師が、患者様の病気や年齢に関わらず、多職種連携のチームの一員として協働してサポートしています。

嚥下機能の検査・リハビリにおける歯科医師の役割は、適切な歯科治療を行い、よく噛めるようにすること、リハビリのための装置を作成することなどがあります。当院では、多くの診療科の歯科医師が関わります。特に顎義歯などの特殊な装置を専門の歯科医師が作成し、患者さんの状態に合わせた細やかな治療を行います。

口腔外科で治療を受けている患者さんは、舌や顎の手術により咀嚼や嚥下の機能が低下します。また、抗がん剤や放射線治療によって口腔乾燥症や粘膜炎を発症し、食事が取りづらくなることもあります。それらの障害を最小限となるように、手術前から機能を評価し、手術後の機能を予測し、耳鼻咽喉科医や言語聴覚士と連携して専門的な治療を行なっています。

入院中は歯科衛生士とともに専門的な口腔ケアを行い、食形態や嗜好に合わせた食事の選択を、医師・歯科医師・看護師・薬剤師・栄養士からなる栄養サポートチーム（NST）とともに行います。当院の院内連携を生かし、患者様が安心して療養できるように支援していきます。



写真1 顎義歯:補綴科 吉田先生提供

歯科衛生士部 杉本 清楓 江端 紀代美 繩田 和歌子

摂食嚥下・言語センターでは様々な職種が関わり、ことばや飲み込みの問題に対して専門的な医療を行っています。その中で歯科衛生士は、入院中の患者さんや施設の入所者の方へ口腔衛生・機能の維持と改善のために口腔ケアに取り組んでいます。口腔ケアとは、歯の清掃（歯磨き）だけではなく、舌や歯茎、頬の粘膜などを含めたお口全体の清掃と咀嚼や嚥下（飲み込み）、発声などの機能の低下を予防するリハビリテーションやマッサージを行うことを言います。

お口の中は呼吸器や消化器へ通じる入口であり、お口の中が清掃不良だと全身の感染症を引き起こす原因になります。また、口臭の原因や味覚にも影響を及ぼし、自分自身を不快にします。歯科衛生士が口腔ケアを行うことでお口の衛生状態を改善するだけでなく、お口の周囲の筋肉や舌、唾液腺に刺激を与え、固まった筋肉をほぐし、唾液の分泌を促進

します。それにより食べ物を噛み、飲み込むことや言葉を発するなどの機能の改善に繋げています。さらに、歯科衛生士がお口の環境を整えることで、言語聴覚士が行う嚥下訓練が円滑に行うことができます。

摂食嚥下・言語センターは、外来での嚥下訓練も積極的に行っていますが、現在歯科衛生士は外来には携わっていません。今後は外来で嚥下訓練を行っている患者さんに対しても口腔ケアの介入を行い「食べる・笑う・話す」などの生涯にわたる「口腔健康管理」を行っていきたいと考えています。



摂食嚥下障害看護認定看護師は様々な疾患や加齢などの理由によって、「食べる」「飲み込む」ことが難しくなった患者さんに対して、窒息・誤嚥性肺炎・脱水・低栄養などのリスクを回避し、安全においしく食べることへの実践・指導・相談の役割を担っています。具体的には食事介助や口腔ケアなどの専門的ケアを実践することで生命力の復活と疾病からの回復を支援し、同僚看護師の指導や相談、育成に取り組んでいます。

嚥下・言語センターの取り組みとして、病棟では看護師による摂食機能療法を導入し、多職種と嚥下カンファレンスを開催し対象患者の摂食嚥下機能に応じた対処法や栄養管理方法について検討しています。さらに、同系列の介護老人福祉施設へ歯科医師や言語聴覚士と出向いてミールラウンドを行っており、医療・介護場面での包括的食支援を目指しています。

摂食嚥下障害看護認定看護師 田中 美穂

摂食嚥下分野の活動を通して実感したことは、摂食嚥下障害とは小児から老年期、終末期医療まであらゆるステージで展開されるということです。その中で、経口摂取を実現することだけが目標ではなく、場合によっては、食べない選択や高齢者の栄養補給の意思決定を支援することも求められます。食という生命の根源を支える分野を、患者や家族の死生観も含め生活者として全人的に支援する必要があります。私は看護師として患者の一番身近な支援者であり、生活情報やアセスメントを多職種へ情報発信源として提供する中心的な存在となり、摂食嚥下支援チーム中で互いの専門性を發揮し患者さんのQOL向上を支援していくたいと思っています。



言語聴覚士とは、「話す」、「聞く」、「食べる」のリハビリテーション（リハ）を行う専門家です。センターでの取り組みとして、飲み込み（嚥下）や発音（構音）、声（音声）に障害がある方たちへ訓練を行っており、特に嚥下障害の方に対するリハに力を入れています。具体的には、嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査で問題点を明らかにした上で、嚥下に関連する筋肉のトレーニング、食事形態（とろみ、ペースト食など）、食事姿勢の調整、嚥下方法の提案などを行います。入院だけでなく、外来でもリハを行っていますので、ご希望の際には、耳鼻咽喉科を受診してください。最近で

言語聴覚士 大森 史隆

は、お子さんの読み書きや発音のリハ、関連施設（老健、特養）の一部で食事評価やリハも行っています。

今後は、患者様へのリハに加えて、研究活動にも注力しています。現在は、嚥下時の喉（のど）の運動を光学距離センサで捉える装置を使って、どのような食物・摂取量にすれば「嚥下時の喉の運動」を最大化できるかを検証しています。このような研究成果を患者様にも還元し、質の高いリハプログラムの提供を行っていきたいと考えています。



令和6年度 齒科外来初診担当医表

総合歯科・高齢者歯科	月	火	水	木	金	土
午 前	山田	畠山	島津	益崎	口腔医療センター	口腔医療センター
午 後	総合ローテーション	高齢者・保健・訪問 ローテーション	山本	吉田	口腔医療センター	

保存科・歯周病科	月	火	水	木	金	土
午 前	松本(和)・水上	丸尾	大和	松本(和)・水上	当番医	当番医
午 後	吉永	松本(典)	廣瀬	大城	当番医	

補綴科	月	火	水	木	金	土
午 前	加我	高江洲	前芝	宮園	谷口	当番医
午 後	濱中	山口	吉田	柴口	北條(西村)	

口腔インプラント科	月	火	水	木	金	土
午 前						当番医
午 後			城戸・加倉			

口腔外科	月	火	水	木	金	土
午 前	横尾	勝俣	吉住	橋本	1.3.5週 吉住	当番医
午 後	(勝俣)	(吉住)	(橋本)	(横尾)	2.4週 勝俣	

矯正歯科	月	火	水	木	金	土
午 前						当番医
午 後		阿部・梶原・石井・中嶋・國見・竹崎				

小児歯科	月	火	水	木	金	土
午 前						当番医
午 後	三輪	一瀬・姫野	中野・中嶋	幡地・岩橋	田平	

障害者歯科	月	火	水	木	金	土
午 前						当番医
午 後		森田・天野・田崎・尾崎・松尾・薬師寺				

口腔放射線診断科	月	火	水	木	金	土
午 前	筑井	香川	筑井	香川	筑井	当番医
午 後	筑井	香川	筑井	香川	筑井	

口腔医療センター	月	火	水	木	金	土
午 前					当番医	当番医
午 後		泉・古賀・金子			当番医	

令和6年度 医科外来担当医表

内 科	月	火	水	木	金	土
午 前	植木/大星/永井	大星/北村	永井	於久/大星	北村/於久/植木	1北村 2永井 3植木 4於久 5大星
午 後()内は応援	北村/(於久)	於久/(植木)	植木/(北村)	永井/(大星)	当番医/(永井)	

※金曜午後の当番医は土曜と同じ

呼吸・循環器科	月	火	水	木	金	土
午 前			松元/得能	松元		
午 後			鶴木			

健診センター	月	火	水	木	金	土
午 前	山本<非常勤>	得能	鶴木	得能	竹本<非常勤>	
午 後	得能(鶴木)	鶴木(得能)	得能(鶴木)	鶴木(得能)	鶴木(得能)	無し

外科・内視鏡センター	月	火	水	木	金	土
午 前	神代/鴨打		池田/神代/栗山	池田/神代/栗山	池田/栗山/宮崎	池田/栗山/宮崎
午 後 (一般外科)	神代/鴨打	(手術日)当番医	(手術日)当番医	神代/栗山	池田/栗山/宮崎	
午 後 (乳腺/肛門)			渋田・日高(第2)			

心療内科	月	火	水	木	金	土
午 前 (完全予約制)	田中		金光		金光	当番医
午 後 (完全予約制)	金光	田中		田中	田中	

耳鼻咽喉科	月	火	水	木	金	土
午 前	山野(新患)/木村	山野(新患)	西平(新患)	木村(新患)	西平(新患)	2.4週 山野
午 後	木村(新患)/山野	山野(新患)	木村or山野(新患)/西平	木村(新患)	木村or山野(新患)/西平	1.3.5週 木村

※山野Drは外来診療担当日以外でも対応可能なことがあります(研修日を除く。要確認)

形成外科・美容外科	月	火	水	木	金	土
午前・午後 (完全予約制)	萩家	萩家	萩家	萩家	萩家	再診のみ

皮膚科	月	火	水	木	金	土
午 前	吉田/伊地知	伊地知/古村	吉田/伊地知	伊地知/(吉田)	古村/吉田	古村
午 後	吉田/伊地知*	伊地知	吉田/伊地知	手術日	古村/吉田	

*パッチテスト優先

眼 科	月	火	水	木	金	土
午 前	大島/高木/姫野	大島/高木/姫野/平田	大島/高木/姫野/平田	高木/姫野/平田	大島/高木/姫野/平田	当番医
午 後	高木/平田	手術日	高木/姫野/平田	手術日	高木/姫野/平田	

小児科	月	火	水	木	金	土
一般(午前)	奥園	一宮	一宮	奥園	奥園/一宮	
午後 (予防接種)(予約制)	奥園				岡田/奥園	
午後 (神経・発達)(予約制)	鳥巣/一宮	鳥巣/一宮	鳥巣/一宮	鳥巣	鳥巣/一宮	

整形外科	月	火	水	木	金	土
午 前	千々岩/篠原	西尾/篠原	西尾/千々岩	千々岩/篠原		当番医
午 後 (予約制)	西尾	篠原	千々岩	篠原		

患者の皆様の権利

- ①個人の尊厳を尊重され、良質な医療を公平に安心して受ける権利があります。
- ②病気や診療内容について納得できる十分な説明と情報を受ける権利があります。
- ③十分な説明と情報提供を受けた上で治療方法などを自らの意思で選択・決定する権利があります。
- ④診療における個人情報の秘密が守られ、プライバシーが保護される権利があります。
- ⑤ご自身の診療録の開示を求める権利があります。

患者の皆様へのお願い

- ①良質な医療の提供を受けるためには、ご自身の健康に関する情報を正確に提供いただく必要があります。
- ②納得のいく医療の提供を受けるためには、医療に関する情報と説明について十分理解できるまでお尋ねください。
- ③すべての方が等しく適切な医療を受けるために、患者の皆様には他の方や病院職員に支障を与えないようご配慮くださいますようお願いいたします。

本冊子に掲載している患者さんの写真については、ご本人とご家族の了解を得ております。

病棟用のwi-fiが繋がりました!

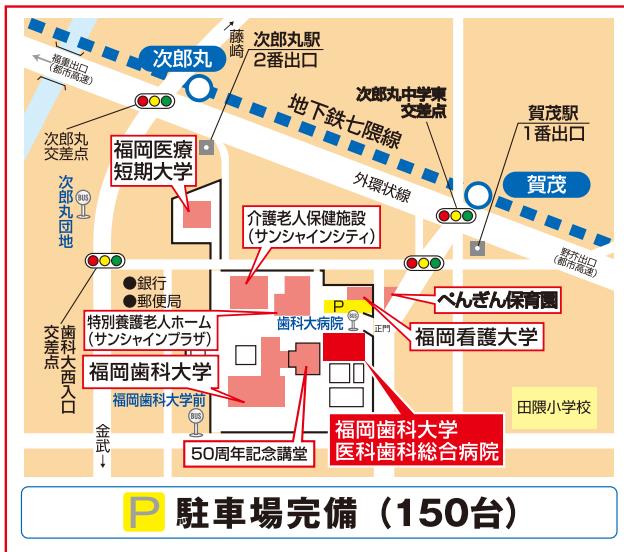
4月より、入院患者さんから要望の多かった、wi-fiが繋がりました。

入院患者の皆様の、療養生活がより快適なものになりました。

利用規約をよく読んで、快適なwi-fiの活用にご協力をお願いします。



● 交通のご案内



P 駐車場完備 (150台)



診療時間 平日: 9:00~18:00 土曜日: 9:00~13:00

受付時間 平日: 8:30~11:30 土曜日: 8:30~11:30

12:30~17:00

※医科の新患および予約外は15:00まで

予約の変更受付時間 平日: 13:30~16:30

休診日 日曜日・祝日・年末年始

面会時間 平日: 13:00~20:00 休日: 10:00~20:00

編集後記

「1秒」の定義が変わろうとしているのをご存知でしょうか。その昔は1日に1周する日時計を基準に時間が定義されていましたが、現在は「セシウム原子時計によるマイクロ波が91億9263万1770振動する時間」が「1秒」とされています。さらに近年では光格子時計というものが発明され、より精度の高い「1秒」を計測することができつつあるため、近い将来、定義が変わると言われています。AINSHUTAINが示したように、時間は重力の影響を受けるため、この光格子時計を利用すると重力の微小な変化を捉えることが可能になり、大地震の予測などにも役立つ可能性があるようです。地道な“研究”が“未来”を作り出す好例ではないでしょうか。

さて、様々な「つなぐ」が当院の理念に掲げられており、今回の「特集 繋ぐシリーズ」では、摂食嚥下に関する“医科と歯科のつながり”を紹介いたしました。特集以外でも、“研究”や“未来”へのつながりに想いを馳せられたように感じています。さらに我々の取り組みが、“地域”的”患者さんの健康にもつながるよう、思いを込めまして稿を閉じさせていただきます。

サービスマナー向上委員会 高齢者歯科学分野 准教授 梅崎 陽二郎